

コレクションの体系的性、展示の意外性

——野外博物館と美術館

近年、建築を含む美術展示において、形態や素材やモチーフなどの観点から、体系的な時代区分をこえて作品同士を会わせる試みが顕著である。展示以外でも、各時代の文脈や体系的な記述を多少犠牲にして、例えば西洋古典と近代以前の日本を直結するような試みに、意外性や創造性を認めることもある。展示構成や歴史記述において、ただ意表を突いただけにとどまらない創造性とはなにか、展示の現場を知悉するお二人に伺う。

7月10日(土)13:30-16:30 Zoomにてオンライン開催

講演 **中川武** 博物館明治村館長 早稲田大学名誉教授

博物館明治村コレクションの課題と意外性の発見

木下直之 静岡県立美術館長 東京大学名誉教授

建築展の拡張——竹中工務店ギャラリーエークワッドの試みから

コーディネータ 天内大樹 静岡文化芸術大学 東海支部歴史意匠委員会

参加費無料 要申込み/7月4日まで

日本建築学会東海支部HPをご覧になり、申込みフォームからお申し込みください。

主催 一般財団法人日本建築学会東海支部

問い合わせ先 日本建築学会東海支部歴史意匠委員会 tokai-sibu@aij.or.jp

日比野秀夫, 田中文雄「静岡県立美術館の開館——美術館の理想像を求めて」『博物館研究』21(8), 1986 / 菊地重郎「明治村移築建築の評価」『建築雑誌』建築年報 1966.12